

# 第52回カンサーボード開催通知

日時:平成22年7月7日(水)18:00-19:00  
 場所:附属病院4階第1会議室  
 テーマ:肺がん

第51回は78名の方にご参加いただきました。

## 第51回カンサーボード報告 化学療法誘発悪心・嘔吐のメカニズムと治療最前線

### がんの治療法

### 分子標的療法

手術 放射線治療 化学療法 遺伝子治療

細胞療法

遺伝子治療

がん治療には多くの有害事象を伴う

有害事象で治療の完遂ができず、がん治療の障害となる

有害事象を軽減し、がん治療効果を上げることが必要

**支持療法** がん治療に伴う有害事象や合併症を予防または軽減させる治療

### がんの治療で制吐療法は支持療法のひとつ



### 悪心・嘔吐とは？

**emesis**  
 •vomiting  
 •retching

#### ● 悪心 (nausea)

いわゆる「吐き気」や「嘔気」のこと。  
 悪心は、嘔吐しそうな不快感で、延髄嘔吐中枢の求心性刺激(副交感神経緊張亢進など)の認識を表す。

#### ● 嘔吐 (emesis)

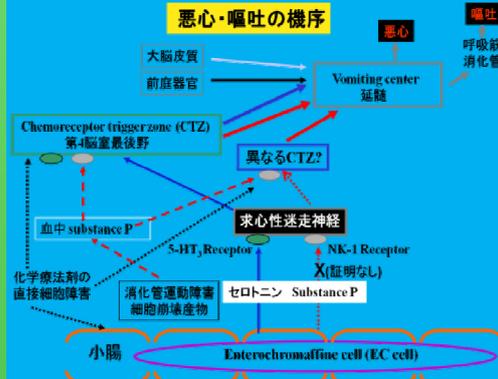
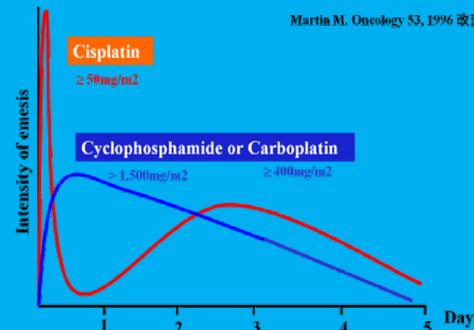
食べた物をもどすこと(vomiting)  
 何も出ないがもどそうとする行為(retching:空嘔吐)  
 嘔吐は、胃内容物を強制的に排出させる運動で、胃底部および下部食道括約筋が弛緩しているときに腹筋の不随意収縮によって起きる。

### がん化学療法中の患者が 苦痛と感じる自覚症状

順位	1983年*	1995年**
1	嘔吐	悪心
2	悪心	脱毛
3	脱毛	嘔吐
4	治療に対する不安	疲労感
5	治療時間の長さ	注射に対する不快感
6	注射に対する不快感	便秘
7	息切れ	治療に対する不安
8	疲労感	家族や配偶者への影響
9	睡眠障害	抑うつ感
10	家族や配偶者への影響	不安・緊張感

セロトニン受容体拮抗薬発現も抗がん剤投与による悪心・嘔吐は、いまだ患者の苦痛度順位のトップ3にランクインされ、コントロールが不十分である。

### Patterns of emesis induced by different cytotoxic agents



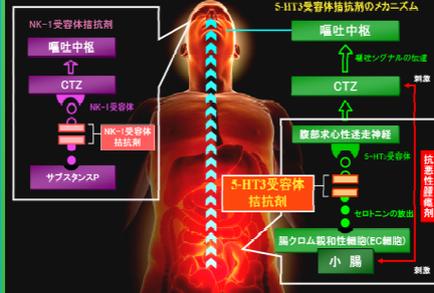
### セロトニン受容体拮抗剤およびデキサメタゾンによる 制吐療法実施時の嘔吐発現率 (欧米)

	嘔吐発現があった患者割合	
	急性期	遅発期
高度催吐性がん化学療法 シスプラチン、ダカルバジン	11.9%	50.0%
中等度催吐性がん化学療法 シクロホスファミド+ドキシリビシン、シクロホスファミド+エビルピシン、カルボプラチンなど	13.2%	27.9%

デンマーク、フランス、イタリア、ドイツ、イギリス、アメリカの14施設で試験を実施した。対象患者はがん化学療法を受けた経験のない18歳以上の患者とした。患者数は288例(HEC: 67例、MEC231例)であり、主ながん種は乳がん(49.3%)、肺がん(17.8%)であった。制吐療法は当時のガイドラインに則って実施し、セロトニン受容体拮抗薬を282例(98.6%)、ステロイドを227例(77.7%)の患者で投与された。また、セロトニン受容体拮抗薬3日間投与を行った患者は71%、ステロイド3日間投与を行った患者は33%であった。

Bjorkstrand M, et al. J Clin Oncol. 24: 4472-4478, 2006

### NK-1/5-HT3受容体拮抗剤の作用機序



監修: 横浜市立大学医学部附属病棟内科 藤野 啓 可夫

### National Comprehensive Cancer Network (NCCN) Guideline 2010

催吐リスク	急性期 (1日目)	遅発期 (2日目以降)
高度 (>90%)	● 5-HT <sub>3</sub> 受容体拮抗薬 ● デキサメタゾン ● アプレピタント	● デキサメタゾン ● アプレピタント
中等度 (30-90%)	● 5-HT <sub>3</sub> 受容体拮抗薬 ● デキサメタゾン ● +/-アプレピタント	● デキサメタゾン または 5-HT <sub>3</sub> 受容体拮抗薬 または アプレピタント*** +/-デキサメタゾン

\* アンスライクリン系+シクロホスファミド(AC)は高度に分類。シスプラチンは50mg/m<sup>2</sup>以上のみ高度に分類  
 \*\* 特定の患者(例えばカルボプラチン、シスプラチン(50mg/m<sup>2</sup>未満)、ドキシリビシン、エビルピシン、イホスファミド、イリノテカンまたはメトトレキサート(250mg/m<sup>2</sup>以上1000mg/m<sup>2</sup>未満)によるがん化学療法を受ける患者)の場合  
 \*\*\* 1日目にアプレピタントを投与した患者の場合



悪心・嘔吐は苦しいよね。苦しさが緩和できて医療費の負担がかからない治療薬ができるといいね。  
 Dr. Hesketh P.J.・Dr. Grunberg S.・Dr. Aapro M.S.やDr. Gralla R.J.の論文に注意していると最新情報がわかるよ。